岐阜大学
教育推進・学生支援機構

教養教育 NEWS

基盤教育センター

vol. 33
December 2020

令和２年４月１日、岐阜大学と名古屋大学が法人統合し、国立大学法人 東海国立大学機構が設立されました。それに伴い、岐阜大学の教育推進・学生支援機構に基盤教育センターが設立され、活動を開始しました。今回は福井博一教育推進・学生支援機構長（教育担当副学長）に基盤教育センターへ期待することについてお話しいただきました。

基盤教育センターへの期待

福井　博一 機構長

教育推進・学生支援機構長　福井　博一

本年4月に発足した東海国立大学機構において、「教育をデザインし、そのデザインのもとで岐阜大学と名古屋大学の共通教育を推進する組織」としてアカデミック･セントラルが立ち上がりました。アカデミック･セントラルの役割には、(1) 異分野への開かれた態度と協調を通した創造性を身につけ、現代社会が抱える問題に挑むためのリベラル・アーツ教育の推進。(2) 現在の若しくは将来予測される課題の発見や解決に挑むための数理・データ科学教育の充実。(3) 国や宗教、地域によって異なる多様な考え方に触れることにより、社会が抱える課題の本質を理解するとともに、その解決策を世界の人々とともに導くことができるようにするための英語教育の充実。(4) 他者と協働して実行する力を身につけるとともに、より深い学修成果を得ることができる学生主体の教育への転換を進めるためのアクティブ・ラーニングや学生の学修成果の可視化の推進。(5) 実社会の課題に触れることにより、その課題に対する理解を深め、新しい発想を生み出すことができるようにするための、企業や社会と連携した教育の推進、があります。

これらはいずれも基盤教育センターが担っている役割でもあり、まさに東海国立大学機構、そして岐阜大学が社会から期待されている教育の質の向上を目指す基盤教育センターの役割を表しているものと考えます。

岐阜大学では、３月から始まった新型コロナ感染症の蔓延を受けながらも、他大学とは異なって、細心の注意と対策を講じた上で新入生に対する対面授業を維持し、大学生としての教育に対する意欲の向上を図ってきましたが、これについても大きな役割を基盤教育センターが果たしていただいたと感謝しております。

これらのように、今後とも共通教育に対する期待は一層大きくなってくるものと考えており、基盤教育センターが中心となって岐阜大学の教育の根幹を支えていただけることを期待しています。

TOPIC 1

コロナ禍における全学共通教育の役割とは

山田　敏弘 センター長

基盤教育センター長　山田　敏弘

コロナ禍に明け暮れた一年となりました。新しく岐阜大学に通うことを心待ちにしていた皆さんには、全学共通教育（以下、「全共」）のガイダンスも途中で打ち切るような形で長期の自宅待機期間に入り、さぞかしがっかりさせてしまったことでしょう。致し方ないことであったとは言え、申し訳なく思っています。

しかし、コロナ禍のおかげで、全共の役割とは何かが明確になってきたようにも感じています。それは、ネットワーク作りと多様性教育だと私なりに整理して捉えました。

新入生のみなさんは、入学してネットワーク作りが十分にできたでしょうか。友達ができるということは、授業で分からなかったことや気づかなかったことを補完してくれる存在を得たということでもあります。メンタルな穴を埋めてくれる存在にもなってくれるでしょう。岐阜大学は組織としても、ネットワーク作りを大切にしています。大学教員や先輩達もいろいろな相談に乗ってくれますし、いざとなれば保健管理センターも肉体的・精神的両面からのサポートをしてくれます。全共が6月から対面授業を始めたのは、そのネットワーク作りが1年生には大切だという認識が共有されたからこそでした。

もう一点は、このような未曾有の困難に立ち向かうためには、やはり専門知識だけでなく多様性の目を育むことが大切であり、全共の役割はその多様性教育なのだということを再確認したことです。感染症との闘いは重要ですが、それだけではやはり不十分で、同時に経済のことを考え、また、哲学的な目ももたなければ、このコロナ禍を乗り越えていくことができないという、大きなディレンマの中に私たちは今います。全共は、専門とは関係のない、一見「無駄」にも思えることを学ぶ場です。しかし、その「無駄」と思えることが、いや、「無駄」こそが危機を打破する突破口となることも、今回の災禍を通じて学んだのではないでしょうか。

全共は、コロナ禍だからこそ得た教訓を、これからも活かしていきます。

TOPIC 2

遠隔授業と対面授業再開をめぐる学生の感想

対面・遠隔授業 の前期と後期

工学部 1 年　藤田　啓翔

コロナが流行し始めてからすでに半年以上たちました。大学に入学したばかりで大学のシステムや生活にも慣れていないなか、感染を防ぐため予定の変更、授業形態の変化などの対策が行われてきました。

前期は専門科目も教養科目もほとんど遠隔授業が実施され、後期では学籍番号が奇数か偶数かで専門科目を遠隔授業で受ける週か、対面で受ける週かが決まっています。教養科目は、ほとんどが対面にかわりました。

前期の遠隔授業で一番困ったことは課題の提出です。どのように AIMS を利用すればよいかわかりませんでした。ダッシュボードに提出しなければならない課題が表示されるのですが、すべての課題が表示されるのかと思いきや、そうではなく表示されないものもあって提出ができなかったということもあります。また、課題が多くて、私もそうなのですが、家で学習しづらい人は特につらかったと思います。そして、完全に遠隔授業というわけではないので 1 コマのためだけに大学に行くこともありました。大学の近くに住んでいる人ならまだ時間もお金も使うことはないと思います。行き帰りに 1 時間超える人も少なくないと思いますし、そうなると当然交通費もかかるため経費が馬鹿になりません。私は毎回、行き帰りに合計で 2 時間以上かかって交通費で 1000 円以上使いました。毎日対面授業があるわけではないので定期も買いませんでした。

後期は最初、工学部のやり方を聞いたときはややこしいなと感じたのですが、前期ほど課題も多くなく、遠隔授業にも慣れることができたので効果があるかは実感がありませんが、やりやすいと思いました。やっぱり遠隔授業よりも対面授業のほうがコミュニケーションも多く楽しいと改めて感じました。

コロナ終息のめどが立たない中、大学のイベントなどもなくなってしまいました。特に、岐大祭がなくなったのは初めてということもあり悲しかったです。しかし、社会のためにも自分自身のためにもこの波を何とか乗り越えたいと思います。そのために試されるのはやはり自分の適応能力です。ただの良くない状況ととらえるのではなく、今だからこそできることを探してやっていきたいです。

遠隔授業と対面授業の狭間で感じる率直な想い

教育学部 1 年　園田　愛梨

前学期前半の遠隔授業は、同期型と非同期型がありましたが、どちらも比較的大きな問題はなかったと思います。ただ、同期型の講義は Zoom や Teams 等の使い慣れないツールを介しての講義であったため、慣れるまでは操作が上手くいかないことが度々あり、少し不便に感じました。また、講義を受ける場所によっては Wi-Fi の調子が不安定なため、雑音や映像の不具合が生じ、とても万全な形とは言えない講義もありました。更に、対面授業とは異なり、受講の様子を先生に見られることがほぼないため、一部態度の良くない学生が目立ち、とても残念でした。

一方、非同期型の講義は、自分の都合の良い時間に受講することができるという利点があり、とても便利でした。「今日はやる気が起きないから明日やろう」という、対面授業ではあり得ないことも非同期型授業ではあり得てしまいます。それが一般的に見て良いことか悪いことかはさておき、少なくとも私にとってはとても良いことでした。また、PDF や講義動画が AIMS にアップロードされたまま残されるので、何度も見返して学ぶことができるというメリットがあります。対面授業や同期型授業でありがちな聞きそびれやメモ忘れを防ぐことができるというのはとてもありがたいことでした。

このように、遠隔授業は普段の講義や今まで経験してきた授業形態とは異なる形の授業であったため、戸惑いや不安が多々ありましたが、Zoom を初めとする新たな手段での授業により、今後の授業形態や学び方の視野が広がったと感じました。

後学期からは本格的に対面授業が増えました。やはり対面で講義を受けると大学生として学んでいるという実感が湧いてくるので、モチベーションアップに繋がりました。また、他の学生と関わる機会が以前より圧倒的に増え、大学生活が一気に楽しくなりました。もう遠隔授業には戻りたくないと思うほど、対面授業再開によって大学生活が明るくなりました。

しかし、まだ完全に対面授業が再開されたわけではないため、遠隔授業との狭間で不便な思いをすることも多々あります。他の授業は遠隔授業なのに一コマだけの対面授業のため、わざわざ遠くから登校し、その後帰る暇はないので学校で Zoom を受ける、という新たな受講スタイルを強いられる人が増えました。中途半端に対面授業が再開されてしまうとこのような不便なこともあるので、もう少し考えていただきたかったという思いもあります。

今後、コロナウイルスの感染拡大により、再度遠隔授業に移行することがあるかもしれませんが、これまでの成果や反省を生かし、学生も先生方も、ともによりよい授業を作っていくことができると良いと思います。

コロナ禍での大学における学び

工学部 2 年　鈴木　那悠太

去年の対面授業と今年のコロナの状況下でのオンライン授業、それぞれを経験し、私は知識や概念の解説の授業はオンラインで、グループワークや実習は対面で行うべきだと思いました。

オンラインならば体調に合わせ自分の都合が良い時間に、理解が不十分なところは繰り返し受講ができる利点があります。しかし、前期の率直な感想としてカメラ越しでグループの意見をまとめようとしても、表情がわかりづらく初対面であれば尚更打ち解けて話をするのは難しかったです。さらに声の被りや機械を扱う個人の能力にも違いがあり、対面では生じ得ない余計な時間ができてしまい、授業時間外での活動を助長する傾向が見られました。これらがグループワークは対面で行うべきだと考える理由です。さらにフィールドワークや体育は実際に体を使うことで楽しむことができると感じました。

対面授業のいいところはオンラインでは伝わりにくい雰囲気や話し手の意思がダイレクトに心に響くところだと思います。先生にとっても授業に取り組むモチベーションが保ちやすいと聞きますし、学生は授業後に質問がしやすいため疑問をその場で解決できます。また、どの授業においていつまでの課題が出ているのか、友人達と確認をすることも容易です。対面授業が再開して本当に嬉しいです。

最後にこのコロナの時代に大学生である私は常に自分の頭で考えることを心がけたいと思っています。情報はインターネットでいくらでも調べることができますが玉石混交です。テレビに出ている「専門家」であったとしても「新型コロナの」専門家（20 年以上研究しているような人）ではありませんし、そのまま全ての考え方を鵜呑みにすることはできないと思います。情報や意見を客観的に見て判断できる力を大学の授業を通して養っていけたら良いと思いますし、それは一人では難しいことで、仲間や先生と議論することが大切だと考えます。

TOPIC 3

全学共通教育授業参観を実施しました

令和 2 年度後期の全学共通教育の講義を山田センター長に加え、副センター長 3 名で参観しました。授業形式が対面のみ、対面と遠隔（オンライン）の併用、そして遠隔のみの授業もある中で、どの授業にも担当教員の創意工夫が見受けられ、非常に興味深いものばかりでした。ここで紹介したいと思います。

対面と AIMS - Gifu のデュアル授業の試み

基盤教育センター長　山田　敏弘

教育学部　杉山真魚先生の人文科目「西洋文化論（西洋建築史）」の授業参観を実施しました。この科目は、毎年 100 名が受講する人気科目です。本年度はコロナ禍で 20 名強が対面で授業を受け、残りが AIMS-Gifu 同内容のビデオを見るデュアル方式で行われています。なぜ、対面で受けるのか学生さんに尋ねたところ、同じ曜日の他の授業が対面で行われていることとの回答もありましたが、やはり対面の良さを学生さんも感じているようで、参観者自身も、対面での授業ならではのアイコンタクトが多く行われていると感じました。

参観した授業では、古代ローマの建築だけでなく、その時代の政治、思想、歴史観までを感じさせるものであり奥深く、また、資料も AIMS-Gifu にふんだんに上げられており、発展した学びへ誘う工夫もあり、授業外でも多く学びたくなる授業です。

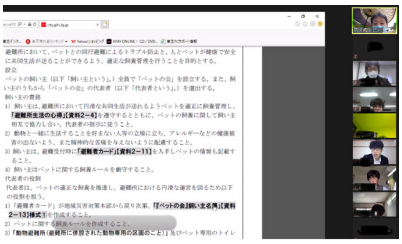
※ AIMS-Gifu：岐阜大学の学生支援を目的とした電算システム

名大生も参画したアクティブ・ラーニングを取り込んだ遠隔講義！

副センター長　纐纈　守

流域圏科学研究センターの小山真紀先生の地域防災リーダー実践Ⅰ（集中講義）の授業参観を実施しました。この授業は，集中講義であり Zoom を用いたオンライン授業です。今回は、名古屋大学の学生も参加しており遠隔講義の利点を感じた講義でした。地域防災に関する防災マニュアルの中身や心得などに関して学生自身が自ら積極的にまとめ自らの意見を発言するアクティブ・ラーニングのよい見本とすべき内容でした。

相当量の資料が準備され提供されておりそれらを受講生はよく読みこんでいるようでした。司会進行の学生が、ほとんどの講義の進行を行っていましたが、他の学生も積極的に発言し相互理解を深めていました。ポイント、ポイントで小山先生の指導が入り最後にはしっかりとまとまった講義に仕上がっていました。学生自身の自らの思考と行動を促しており彼らの自主性の育成が大いに期待できる内容でした。学生ひとりひとりの顔が見え、積極的な発言がありとてもアクティブな講義でした。



Zoom を使った遠隔英語教育が実現！

副センター長　廣内　大輔

イングリッシュ・センターの島﨑治子特任准教授による英語 3 の授業を参観しました。この授業は，Zoom を用いたリアルタイム型のオンライン授業です。担当教員である島﨑特任准教授は、Zoom の機能や特性を知悉し、それを存分に活用しています。

とりわけ、Zoom の機能の一つであるブレイクアウトルームを大変上手く活用しており、90 分の授業のうち、4 ～ 5 回ほど学生をブレイクアウトルームに移動させ、2 人組または 5 ～ 6 人組でのグループワークをさせることで、実際に英語を発声させる機会をふんだんに設けた授業を実現しています。

また、たくさんの学生に対して繰り返し発問を行っており、単に講義を聴くだけのスタイルに終始することなく、学生に考えさせ、答えさせる双方向型・参加型の授業を実現できています。まさに遠隔授業のひとつのモデルケースとなる授業でした。

感染予防を徹底しながらバスケットボール！！

副センター長　白村　直也

全学共通教育・スポーツ・健康科目「バスケットボール A」（田口勢津子先生）を参観しました。屋外バスケットボールコートの出入り口には、プッシュ式の消毒ボトルが配備され、授業を履修している全学生が手を消毒していました。

授業をご案内頂いた杉森弘幸先生（教育学部）にもお話をお聞きしました。前学期は、どのスポーツ・健康科目も履修者数を通常の 50 名から 30 名に限定し、また、対面授業は 3 回に1回程度実施、授業終了後には学生の着替えの時間をずらすなどの配慮もされていたとのことでした。

授業の冒頭では、田口先生が拡声器を片手に今回のテーマ「オフボールディフェンス」を学生に説明されました。グループに分かれて練習した後、実践的なゲームに入っていきました。

通常の授業とは違って学生同士の接触が多い中、感染予防に細心の注意を払われている先生の姿勢に感銘を受けました。

TOPIC 4

基盤教育センターからのおしらせ

令和 2 年度　学生支援プロジェクト中間発表会の開催

学生の課外活動を支援する学生支援プロジェクトが今年度も始動しています。例年多くのプロジェクト申請を学生グループから受け付け、令和 2 年度は以下のプロジェクトが採択されました。1.「看たまノート」を用いた医療系学生のためのキャリア支援プログラム、2. 鵜ヶ池自然再生プロジェクト 2020、3. オンラインで行う学生サポート（楽 tan Θ）、4. Welcome to Gifu！（岐阜の魅力を届けるメディア運営）の 4 チームです。

令和 2 年 12 月 2 日（水）、中間発表会が開催され、各グループは採択されて以降の活動について 10 分間のプレゼンを行いました。今後の活動にも期待したいと思います。

また、中間発表会に先立って、鵜ヶ池自然再生プロジェクト 2020 チームが「サステイナブルキャンパス推進協議会 2020 年次大会（学生活動部門）」で「サステイナブルキャンパス賞 2020」を受賞したという吉報も寄せられました。おめでとうございました！（**白村**）

中間発表会の模様　：楽 tan Θチーム
オンラインで行う学生サポート

教養図書コーナーに立ち寄ってみませんか？

図書館3階「教養図書コーナー」

本学の図書館3階に「教養図書コーナー」が設置されています。ご存じでしたか？平成 28 年度の後学期から設置され、人文科学、社会科学、自然科学、語学、スポーツ・健康などの分野ごとに蔵書が並べられ、5年目になります。学生のみなさんが学問に興味を持つきっかけになるよう、手に取りやすい文庫や新書、マンガで読めるシリーズものなどを中心に毎年 500 冊以上の図書を購入しています。蔵書も 3,200 冊ほどで、かなり充実したコーナーになっています。

また、昨年度からは、アカデミック･コアの学生にも図書を選定してもらうことで、より日々の学習や研究に役立つ本が書架に並ぶようになりました。

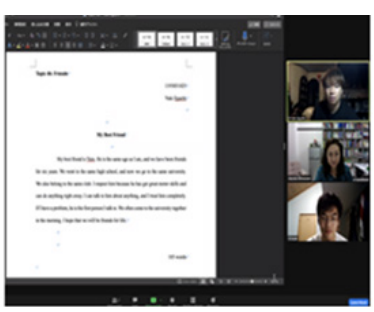
今年度の新着図書は、来年の1月下旬から2月上旬頃には書架に並ぶ予定です。本を自由に選び、手に取って学べるのは、学生ならではの「特権」です。自らの教養を高めるために、是非、3階に立ち寄ってみてください。（**清島**）

イングリッシュ・センターより　Microsoft Teams を活用した英語ライティング授業

今学期（令和 2 年後期）から全学共通「英語4（ライティング）」授業では、Microsoft Teams を使って提出物の管理・フィードバック（評価とコメント）・質疑応答等を行なっています。Teams 導入前と比較すると、次の5点が大きく変わりました。1）対面・遠隔の両授業にいつでも切り替えが可能である。2)Word 文書作成と手書きの両方の指導を自然に導入できる。3）大人数の学生による多数の提出物の管理が容易になる。4）提出物の記録が一目瞭然であり、自律学習を促進できる。5）遠隔授業においても Zoom と併用することにより、ピア・フィードバック活動を実施できる。（写真参照）

現時点では、順調にライティングスキルを向上させ、徐々に評価を上げている学生が多く見られます。今後は Teams 導入前と成果を比較検証する計画をしています。

（**イングリッシュ･センター　島﨑**）



「Microsoft Teams と Zoom の併用」

基盤教育センター（令和 2 年 4 月現在）

センター長　山田　敏弘　専門分野　日本語学
副センター長　纐纈　守　専門分野　化学
副センター長　廣内　大輔　専門分野　高等教育論
副センター長　白村　直也　専門分野　キャリア教育・地域研究

岐阜大学 教育推進・学生支援機構 基盤教育センター

〒 501-1193　岐阜市柳戸 1-1
TEL. 058-293-2169
email ： gjea01008@jim.gifu-u.ac.jp
https://twitter.com/GifuKyouyou
https://www.facebook.com/GifuKyouyou

山田敏弘　白村直也　責任編集